

「テーマ科目」について

「テーマ科目」とは、「会話」「読解」といった技能をベースにした枠組みよりも、学習活動をより広く捉えて展開させるタイプの科目で、

テーマにそって、「この授業では、なにを、どのように、なんのために実施するか」を担当講師自身が決めて展開する科目

担当講師の創意工夫のもとに作られ、提供される科目

とします。テーマは、後述するカテゴリーや内容例を参考に、レベルも含めてご自身で考えることができます。但し、2011年度は、以下のようなレベルとカテゴリーの科目について募集をいたしますので、その範囲での応募をお願いいたします。

応募の際には、カテゴリーごとに、1科目ずつ申請してください。同じ科目名で異なるレベル設定をされる場合は、レベルによる目標や内容の違いが明確になるようにご記入をお願いいたします。

お示しいただいた「科目名」については、カテゴリー内での調整や単位認定のための調整などを行うこともあります。

2011年度は以下の科目を募集します。

- | | | |
|--------------------|-----------|-----------|
| ● A.日本語のしくみ | 1 - 4 レベル | } 約 10 コマ |
| ● B.コミュニケーション・デザイン | 1 - 4 | |
| ● C.社会・文化 | 1 - 4 | |
| ● D.メディア解読 | 1 - 4 | |
| ● E.文学の世界 | 1 - 4 | |
| ● F.創作活動 | 1 - 4 | |
| ● G.アカデミック・リテラシー | 1 - 4 | |
| | | |
| ● A.日本語のしくみ | 5 - 8 | } 約 10 コマ |
| ● B.コミュニケーション・デザイン | 5 - 8 | |
| ● C.社会・文化 | 5 - 8 | |
| ● D.メディア解読 | 5 - 8 | |
| ● E.文学の世界 | 4 - 5 | |

計 約 20 コマ

カテゴリーの説明と内容例については、別紙参照のこと。

「活動型」科目について

活動型クラスとは何か その考え方と人材

この活動型クラスの意味は、これまでの日本語教育が開発してきた「文型」・「語彙」・「シラバス」といった概念を越えて、新しい教育活動形態を作り出そうとすることであります。その活動の概念を要約すれば、以下の2点に集約されます。

- (1) 教師は、自らの教室デザインを明確に持ち、しかも動的な教室活動を学習者とともに作り上げること(教師主体)。
- (2) 確定した語彙・文型等の知識伝授を目的とせず、クラス内の相互関係による「今ここ性」に基づくコミュニケーション実践として教室を機能させること(学習者主体)。

この一連の活動型クラスでは、参加者一人一人の課題を、日本語による議論を通して検討しますが、このことは、3ヶ月でこんな能力が身についたとか、こんな知識・技術が身についたということの意味しません。むしろ、そうした日本語能力の向上をめざす能力主義の考え方から一定の距離を置くことで、大学における自分自身の学びの意味を考えつつ、それを表現化するという成果プロセス主義の立場をとります。また、この動的な活動が次の学習への気づきにもつながるような循環型育成プログラムとして機能するよう提案します。あえて言えば、日本語能力向上という目の前の具体的なものを越えて、参加者一人一人が大学で学ぶことの意味を日本語による活動を通して自律的に考える環境を創ろうという試みです。この活動型プログラムに共通する概念キーワードは、固有性・共有性・対話・相互性・動態性・自律・協働・創造、です。

活動型クラスは、日本語センター1998年のカリキュラム改訂の折に「総合」という形態で出発しました。その後、2004年のカリキュラム改訂の折、教科書型クラスと並行する形で、カリキュラム上に設置され、2008年には「総合日本語」の一部に組み込まれました。世界の日本語教育界において、この活動型日本語教育の理論と実践を提言してきたのは、間違いなく早稲田の日本語教育であり、このクラス設定は、早稲田にしかできない重要な位置づけとなるでしょう。

この活動型教育活動の運営には、教室設計が明確であり、かつ学習者とのインターアクションによって、新しい教育活動を創造していけるような人材が求められます。この人材は、内省的かつ自律的实践家として評価されうる人材でもあります。その意味では、これこそ日本語教師の来るべき専門性を備えた人材ともいえるでしょう。活動型クラスは、こうした人材を求めます。

2011年度は以下の科目を募集します。

- 1レベル 週5コマタイプ 1クラス(月1・2時限、水1・2時限、木1時限)
- 2レベル 週5コマタイプ 1クラス(月1時限、水1・2時限、木1・2時限)
- 3 - 4レベル週5コマタイプ 1クラス(火1・2時限、木1・2時限、金1時限)
- 5 - 6レベル週3コマタイプ 1クラス(火1・2時限、金2時限)

計 4クラス(18コマ)

5コマタイプは週に5コマ展開で1クラスを構成し、3コマタイプは同じく週に3コマで1クラスを構成します。これを1名または複数の教員で担当します。

申請用紙へ記入するにあたり、上記のどのクラスに応募するかを明確にしたうえで、講義概要やシラバスについては、どのような活動を展開したいか、どのようなチームティーチングを行いたいかを自由に書いてください。「例」としても必要最低限しか提示してありませんので、自由な発想の展開を期待しています。複数の教員で応募される場合は、記入した申請用紙をコピーし、応募者ごとに提出してください。

【重要】複数の教員で担当を希望される場合、あらかじめメンバーを固定して共同で申請用紙を作成することもできます。しかしながら、新規応募者に対しては、科目内容の選考および非常勤講師としての選考の双方に合格した場合に、科目の設置が認められることにご留意ください。